

「参加者みんなが主人公」を合言葉に

## 『海上の森の会』が出航！

去る12月23日、瀬戸市文化センターで県内外の約130人が参加し熱気あふれる設立総会がもたれました。

愛知県、瀬戸市に続いて来賓として東京からお越しいただいた(財)日本野鳥の会 自然保護室 室長 古南幸弘さんが「いろんな立場の会員の方が思いをひとつにされることは、全国的にも最初で注目しているし、大いに期待しています」と挨拶された言葉が参加者を和ませてくれました。

その後、設立総会議事内容に従って、それぞれ提案され全員の拍手でもって承認されました。自由質疑の時間ではご質問も建設的なご意見が多く、「海上の森の会」を今後もみんなで創っていくと意欲的な意思が感じられた総会となりました。

設立総会終了後、3月の定期総会を目指し5回の「運営会議」がもたれました。

議題の中心は設立総会で承認された「計画の具体化の作業」でした。時に長時間に及ぶ会議の中でも、視点は会員の要望(海上の自然を守り、里山文化を継承・発展させていく)にどう応えていくかを大切にしてきました。

(福田)

注目!!

## 第1回『海上の森の会』定期総会のご案内

総会では平成17年度の具体的な活動計画について話し合います。

期日 平成17年3月21日(月・祝)

時間 午前10:00~11:30

場所 瀬戸市文化センター

### 主要議事内容

#### 平成17年度活動計画

- (1) 森・里作りの推進
- (2) 自然観察調査活動
- (3) 里山サテライトを拠点とした活動計画
- (4) 広報活動

## 海上の森の会ができるまで

「海上の森の会」会長 木村光伸

2004年12月23日は多くの人々にとって記念すべき日となりました。思い起こせば1990年代初頭から、海上の森を巡るたくさんの議論と諍い、多くの仲間の出会いと別れを繰り返し、それでも海上の森は生き続けてきました。その間のさまざまな思いがようやくひとつになろうとしています。

2000年の愛知万博検討会議で海上の森は万博会場としての主役から、ほぼ全面的に退場しました。一部に残った「そこも海上？」というようところが瀬戸会場で、そこでは今もなお保護保全の議論が続いています。そして海上の森530haは保全からも活用からも取り残されたまま、荒れた里山里地として今日に至りました。

愛知万博検討会議の後継組織のひとつとして愛知県は「里山学びと交流の森検討会」を立ち上げ、2003年8月の報告書をふまえて、同年11月には「里山学びと交流の森づくりの取り組み」が公表されました。そこでは「海上の森の特性を活かし、博覧会の成果と取り組みを継承しつつ、この地の自然、先人の知恵、古からの技術、地域の生活術から学び、幅広い多様な人々が、自ら様々な活動や勤労を通して学習し、参加交流する新しい県民活動の場」の提供が打ち出されました。ここで、県民が自ら活動する組織の必要性が明らかとなり、その後の「組織づくりの準備会合」を経て、県民・市民自らで立ち上げ、運営する活動組織としての「海上の森の会」の誕生となったわけです。

会の設立を目指す過程で纏められた趣意書にもあるように、海上のあり方を論議しつつ、小異に囚われることなく、新しい里山づくりを目指そうというのが、この会の趣旨です。そのために規約は可能な限り簡素なものにして、海上の森を大切に思い、そこでの積極的な活動に参加の意欲がある人なら、誰でも気軽に加わっていただけるような組織をつくらなければならないと、発起人たちは考えました。

海上の森を巡る過去の経緯には今も重たいものがあります。しかし今こそ海上の森が里山里地として適切に扱われてこなかった十数年を取り戻し、参加者の心がひとつになるような活動を、積極的に進めていきたいと思います。

2005年、いよいよ海上の森の会の本当の活動が始まります。準備段階、設立総会、そしてなかなか動き出さない会の現状を見てやきもきしておられたすべての会員の皆様に、作業の遅れをお詫びするとともに、この春からの会の活動に積極的に、またお気軽に参加してくださることを、心よりお願いいたします。

(木村)

## 設立総会資料同封しました

12月23日の設立総会欠席の方に総会で配布、承認された資料を同封しました。事務手続きミスで同封されていない方は事務所まで連絡下さい。

# 海上の森レポート

海上の森の会だよりでは毎回海上の森の最新情報をお伝えします。  
今回は活動拠点として期待されている里山サテライトの生みの母である海上古民家再生プロジェクトから活動のあゆみを伝えてまいります。

## 海上古民家再生プロジェクトのあゆみ

### ○海上の民家が消える。

海上の森の中心にある里で長い間息づいてきた民家がなくなろうとしていた。平成15年2月、突如そんな話が舞い込んできました。

持ち主の方が、老朽化が進み倒壊して通行人に怪我でもさせては申し訳ないとの思いから決断されたことでした。

この民家は大正7年、北隣の赤津町から移築され、85年も生き続けた海上の生き証人であり、町屋型式を備え、当時の家屋建築の様式を知る手がかりにもなる貴重な建造物であります。また、里山の暮らしとともに息づいてきており、海上の里を離れていった人々にはふるさとの記憶として残っているなつかしい風物でもありました。

### 海上古民家再生プロジェクト実行委員会



在りし日の古民家

(平成15年6月22日冬木撮影)

### ○プロジェクトのスタート



ボランティアのチカラで順調に解体されていく

(平成15年7月22日伊藤撮影)

「かつて人里であった証がまた一つ消えることは文化的損失だ」「是非どこかに移築し復元したい」との声があがり、持ち主の方の賛同も得て、地域の人々などに呼びかけた結果、多くの賛同者を募ることができ、古民家再生プロジェクトがスタートしました。

4月には実行委員会を立ち上げ、試行錯誤を繰り返しながらも多くのボランティアの献身的な協力によって活動が始まりました。

#### ・1年目(平成15年度)の活動

- ①海上・古民家里山セミナーの開催(6月22日)・・・参加者の募集も含めて
- ②古民家の人力による解体作業(7～8月 5日間)・・・手作業・手探りで
- ③部材の移動(7～8月 5日間)・・・小型バックホウと人手
- ④部材の保管展示庫設置(8月 4日間)・・・間伐材利用
- ⑤保管庫周辺の整地(9月6日)・・・整地・掃除 やっと完了
- ⑥模型とパネルの作成・・・骨組みの模型と解体作業の経過
- ⑦報告書の作成(A4版59ページ)・・・記録としてのまとめ

ひとまず、古民家を復元するための準備は完了しました。

## ○復元に向けて

ボランティア活動だけで古民家を建築することには限界があり、なんとか公的な事業でできないかと県にお願いしました。幸いにも県が進めている「里山学びと交流の森」の里山サテライトとして整備されることが決まり、建築の一部をボランティアが手伝うという協働作業で、復元に向けた建築が始まりました。



木舞（こまい）編みを手伝う  
(平成16年12月11日伊藤撮影)

### ・2年目（平成16年度）の活動

- ①赤津瓦の採取（6月5日）・・・・・・・・赤津町の改築予定家屋の瓦  
海上古民家は赤津瓦（陶器瓦）で葺かれていましたが、赤津瓦は現在生産されていないため、復元に際し、建て替え予定の赤津瓦葺きの家に願い出て、再利用のない赤津瓦を貰い受けました。
- ②竹木舞用の竹伐採（9～10月3日間）・・・切り出し、所定の寸法に寸断
- ③竹木舞作り（同上）・・・・・・・・幅2cmの竹材に削る。約5500本
- ④地鎮祭（10月30日）・・・・・・・・無事を祈って、神妙に
- ⑤瓦の運搬（11月6日）・・・・・・・・軽四のピストン運搬
- ⑥瓦の洗浄（11月3日間）・・・・・・・・一枚一枚手作業での土落とし 約3500枚
- ⑦竹木舞編み（12月11・12日）・・・・・・・・左官さんの指導で
- ⑧上棟式と餅投げ（12月12日）・・・・・・・・20臼の餅をついた
- ⑨荒壁塗り（12月19・23日）・・・・・・・・素人左官 「腰・手が痛い」
- ⑩土間たたきの仕上げ（2月19・20日）・・・6cm位の厚さに「たたけ・たたけ」

上棟式では、約120人もの人々が駆けつけ再建を祝ってくれました。搗いた餅を山盛りに詰めた祝い櫃を10個も並べ、昔ながらに屋根から餅投げもしました。海上での餅投げは40年ぶりのことで、昔はあちらこちらで見られた建前の風景は姿を消しておりました。この様子をお子たちにも見てもらい、地域文化の継承に一役買うことができました。会員は棟上げの済んだ古民家を見てこれまでの苦勞が実ったと涙が出るほど感激しました。

## ○完成後の利活用

実行委員会設立当初から毎月1回は運営会議を開催し、作業計画などを詰めるとともに、ほとんどの人が休日を返上して土日中心の活動に参加したことで、このプロジェクトは成し遂げられました。立派にできあがった古民家をいかに活用し生かしていくかが今後の課題です。



みんなの手で再建された古民家  
(平成17年2月22日冬木撮影)

多くの人に親しまれる海上の森の活動拠点として、また、地元の人には海上を偲ぶ心のふるさととして、50年100年と引き継がれていくことこそが、古民家再生の究極的な目的であり、これによって古民家は新たな意味と価値を持つことになります。

今後は「海上の森の会」の皆さんを始め多くの方の手で育てていただきたいと思います。

(浦井)

## 平成17年度会費の納入状況

2月末現在で、会員数228名、そのうち130名の方から193,000円を納めていただきました。未納の方は3月末までに、同封の「払込取扱票」で郵便局にてお振込み下さい。なお、会費は1口1,000円とし、1口以上をお願いします。

### 編集後記

春まだ浅い海上の森ですが、小川の水もぬるみはじめ道ばたにはオオイヌフグリが可憐な花を咲かせています。

初めての会報を緊張しながら編集しました。海上の森を愛する皆さんへの情報発信の場として今後充実させていきたいと考えています。御意見ご要望をお寄せ下さい。

編集担当 冬木

### 海上の森の会

会長 木村 光伸

### 事務所

〒480-1298 瀬戸市上品野町1350

名古屋学院大学経済学部 木村光伸研究室内

FAX 0561-42-0324

E-mail kimura@ngu.ac.jp